



世界最長の家系図

はん 敏
韓 敏

民博 民族文化研究部

思想的に大きな影響を後代の人びとにおよぼした孔子ではあるが、多くの日本人にとって、はるか昔の人のイメージが強い。しかし中国では孔子一族は決して過去の存在ではない。族譜を通じてその一族は今日まで脈々と続き、また裾野をひろげてきている。

族譜でつながる人びと

中国では、古くから父系の家系図を記録する族譜をつくる風習がある。族譜は、一族の由来から、その後の系譜関係、墓地の分布、男性メンバーの生死の日時、学歴、官職、妻子などさまざまな一族の歴史を記してきた。

族譜はかつて帝王諸侯の家系と事績を記録することに始まった。婚姻や官位の等級はその家柄によって左右されたので、族譜の編集は貴族のあいだで盛んにおこなわれた。

唐代と宋代、門閥貴族が没落すると新支配層となった地主や社会的地位のある官僚・知識人のあいだで族譜の編集が盛んになり、明代には一般庶民にまで普及するようになった。

族譜編集が貴族から地主や庶民へとシフトするにつれて、編集の目的も官僚や婚姻相手選定の際、家柄を参照する手段から、祖先崇拜や一族の親睦をはかるもの

へと変わっていった。

よみがえる族譜の伝統

文化大革命のころ、族譜は封建制度の名残とみなされ、没収されたり、焼かれたりしたが、一九八四年からは国の貴重な文化遺産として認められ、民間でも族譜の編纂が再開されている。

たとえば、孔子一族は二〇〇九年に七〇年ぶりに第五版の『孔子世家譜』を出版した。それまでの二千年のあいだに、孔子一族の族譜は、明代の天啓、清代の康熙、乾隆の時代と一九八三年の四回にわたって改修され、二〇〇五年には「世界最長の家系図」としてギネスブックに登録された。新しい『孔子世家譜』は、八〇冊、四三万ページ、約二千万字から構成され、二〇〇万人あまりの孔氏メンバーが収録されている。そのうち、元の順帝（一三三三年～一三七〇年）時代の五四代目から現在の八五代目までのあいだには二万八千あまりの韓国在住の孔子の子孫が含まれている。



民博の図書室に収蔵されている「孔子世家譜」

現在、日本における中国系の人びとは六〇万人にもおよぶという。孔子の族譜を受けつぐ人びともきつといるのではないだろうか。